# まちづくりNEWS

旭川市総合計画市民検討会議

第4分科会　vol.2

平成26年9月16日



（発行元）
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
旭川市1条通8丁目　フィール旭川7階
TEL/FAX 26-0338
（委託者）旭川市総合政策部総合計画課


## 第4分科会第2回目の議論！

平成２６年7月18日（金）に、第2回旭川市総合計画市民検討会議第4分科会が開催されました。

平成２８年度からの新たな総合計画の策定に向けた検討を行うために設置された検討会議において，この第4分科会は、これからの旭川市の「産業・交流」についての議論を行っています。

今回の会議では，前回欠席された委員の皆さんからの自己紹介が行われた後，前回同様，団体推薦委員のお話と題し，４名の団体推薦委員（うち１人の委員は欠席のため，座長が代理）から，各業界の現状，課題などについてのお話が行われ，その後，そのお話の内容などをもとに，委員全員によるフリートークが行われました。

団体推薦委員のお話及びフリートークの発言の要旨は以下のとおりです。

## 団体推薦委員のお話

### 委員発言要旨①

旭川は，若年層と働き盛りの方々が市外へ流出している傾向が他の地域に比べて非常に強い。旭川は暮らしやすい街かという質問に対し，約8割の人たちは暮らしやすい街と回答しているが，住み続けたいかという質問には，若年層では，37%の回答にとどまっている。その問題点としては，就労の問題が大きいのではないだろうか。

日本における平均所得に比べて旭川の平均所得は低く，旭川で働く魅力が薄い。現在，旭川の機械金属製品は，家具や木工のように地域資源に指定されている。旭川家具はブランドとして全国的にも有名であるが，機械金属製品も１つのブランドと確立し，全国的に認知されるように企業が努力する必要がある。旭川にもこういうものづくり企業があるということを知ってもらえれば，旭川で働きたいと思える若者が増えていくのではないか。

### 委員発言要旨②

食品加工業界は縦割りであり，業種毎にそれぞれの組合があったが，地域の力を１つに結集しようということで，各組合が合同で食品加工協議会を設立した。

３０年近く前になるが，専門ではなかったものの，地元のそばを使い，江丹別そばを商品として売り出した。原料が高いこともあり，業界の専門家たちには売れないと思われていたが，自分たちが専門家でなかったことで既成概念にとらわれずに冒険ができた。食品加工協議会では，そのようなことをそれぞれの立場で，視点を変えて，取り組んでいこうとしている。

目指しているのは，それぞれの分野の力を生かして，総合力でものづくりをするということである。現在，旭川しょうゆ焼きそばの会の会長をしているが，しょうゆ焼きそばは，１，２，３次産業の連携としてできたものであり，これをつくったことにより，初めて各産業の人たちが同じテーブルに着き，顔を合わせて話す機会ができた。

道内の他の地域と比較した際，商品開発に係る高度な技術や機械設備等の部分を支援してくれる公設の機関が無いなど，地域間競争についていけないのではないかと懸念される要素もあるが，食品産業としては，ほかの土地に行っても喜んで，旭川の食品は良いと言っていただけるような商品をつくっていきたい。

### 委員発言要旨③

米どころといわれる上川管内でも，旭川は特に米の販売高の割合が高く，販売高全体の70%を占めている。

良質米，売れる米づくりへの取組として，まず，特色のある米をつくるということがあり，「イエスクリーン米」や「特別栽培米」という低農薬の米の生産に取り組んでいるところである。また，優良品種の拡大にも取り組んでおり，「ゆめぴりか」と「ななつぼし」という米は，第３者機関において「特Ａ」という最高の食味の評価をいただいている。そのほかにも，産地指定率の向上，作業効率の向上に向けての取組を行っている。

ＴＰＰの関係では，農畜産物の重要５項目が北海道の販売高の８割以上を占めており，また，旭川の販売高においても米が占める割合が高いことから，ＴＰＰの妥結状況によっては，北海道や旭川の農業に大きな影響を及ぼすことも考えられる。

北海道の自給率は１７０％を超えており，本州に取引先を求めて出荷している状況である。また，米については，今後，消費も下がってくることから，産地間競争が激しくなると予想される。旭川の米は全国に出しても負けない米であると自負しているが，これを維持するためには，地域全体で農業を守っていくことが必要である。

### 委員発言要旨④

観光は，人の交流を促し，お金も一緒に動かすということが１つの目的である。観光の最前線にいるのがホテル・旅館業であり，地元の良さを伝えるのに１番向いている業種であると認識している。

観光にとって大切なことは，安心と安全と感動を与えなければならないことと，リピーターをつくらなければならないということである。感動してもらい，旭川にまた来たいと思ってもらわなければならない。そこには常に人がかかわってくる。

以前もよく提言していたが，買物公園に屋根があれば，天候に関係なく回遊できるようになる。また，家具や木工製品を集中させるなど，まちの中心である買物公園に，旭川のいいものを集中させてはどうかという提言もしたことがある。

北海道は広大であり，空港や駅などの港をしっかりと結ばなければ，なかなか発展はしないと思う。港を結ぶことに力を入れてほしい。また，もし千歳や旭川にハブ空港があれば，すばらしい拠点になると思う。

旭川においては，高齢化等に対応するために段差をなくしていくなどの「やさしいまちづくり」がキーワードになってくれればよい。キーワードを１つを決めてくれれば，我々の業界も，それに則って建物を建てていける。

また，旭川は川と橋のまちであり，このことで物語をつくっていける。例えば橋の名前についても，物語にたとえて名付けていけばよいのではないか。

## フリートーク　委員の発言要旨

●買物公園を活性化しなければ人は集まってこない。だが，中心市街地や買物公園の重要性に気付いていない人は多いと感じる。
●ネガティブであることが合理的という状況になっている。非合理的な考え方の人が出てこないとなかなかポジティブになれない。意図を持った上で，突拍子のない考えを出していかなければならないし，それをやりたいという人を集める必要がある。
●これからは周りの環境がめまぐるしく変わっていく。常にフレキシブルに，その場に合わせた行政の取組，市民の取組ができるような将来の計画をつくることができればよい。
●旭川は四季がはっきりとしている。自然をいかにして生かせるかということで，何かを考えて行ければと思う。
●東川町はまちを挙げて道外からの永住者の誘致に力を入れ，実際に人が来ている。人がいなければ何事も活性化していかないので，旭川もそういうことができればよい。
●旭川空港の名称を「北海道中央空港」に改名することについて，強い思いを持っている。北海道の真ん中にある空港というイメージにより，多くの人に来てもらい，市が発展するきっかけになる可能性があるし，それほどお金はかからないと思う。
●量的な発展が望めないのなら，質的な発展にどう転換していくかという議論をしなければならない。また，こういうことはすべきではないのでやめようという議論や，何を削ろうかという議論をしていかなければならない。
●宿泊した旅館の印象がよければ，その旅館の名前は忘れても，旭川や日本がよかったと思って帰ってもらえると思う。少しでもそのような役割を担えたらよいと思う。
●何かを始めるには仕掛けが必要であるが，仕掛けの方法については，ほかの組織の別のやり方を持ってくるなど，そういう視点の使い方も必要であると思う。

## 今後の予定

第３回目は当初の予定どおり，8月12日（火）に開催することが確認されました。